自治会まちづくりミーティング（要旨）

1. 自治会等の名称 鵜沼第1・各務・八木山自治会連合会
2. 日 時 平成30年6月21日（木） 19時00分～20時40分
3. 場 所 鵜沼福祉センター
4. 出 席 者 自治会長 35名、 市長、 企画政策課長、 商工振興課長

〈内容〉

○連合会長のあいさつ

○市長のあいさつ

○テーマ概要

テーマ①：各務山（前山）の開発

テーマ②：伊木の森を「鵜沼の里山」として保全し市民の憩いの場に

テーマ③：イオンタウンの出店に伴い住民が気軽に入れる図書館の新設を

テーマ④：老人力「宝の箱」発掘して活用を

○提言による懇談

テーマ①：各務山（前山）の開発

〈各務西組〉

前山の利用について提言させていただきます。

前山の岩石採取は、自分が中学生の頃から始まりました。長良川の堤防決壊の時に土がたくさん要ったとも聞いております。それから長い年月が経ちました。未だに採取が継続され、地形は変化し平地となっている部分も増えてきました。

この平地の部分の活用として 1/3 を工業団地、1/3 を公共施設用地、1/3 を住宅地として開発するのが良いのではと考えています。

各務地区においても小学校の子どもも減少してきています。私の頃は各務小学校は 77 人位いて 40 人クラスで 2 クラスあったのが、今は 25 人位のクラスでかろうじて 2 クラスだと聞いています。そういったことから住宅地の開発をし、工業団地を整備し、優良企業を誘致して働ける場所を創る、そうすれば名古屋を始め他地区の人にも住むことが出来て人口増に有効と考えています。

工業団地を誘致する有利な点としては、北にはおがせ街道、南には国道 21 号線があり江南関線・各務原 IC も近く交通の便が良いこと、船山地区には VR テクノセンターもあり、すでに優良企業が入っていることなどがあります。

また、前山の南側にテニスコートがありますが、場所的に各務原市の中心でもありますので、ここにスポーツ施設や娯楽施設をまとめて整備すると有効利用ができると考えています。

〈市長〉

岐阜県内では近年、企業立地が好調に推移しており、自動車や航空機関連の輸送機器製造業を中心として、工業用地の取り引きが盛んに行われています。各務原市内においても、ものづくり

の街として工業用地としての需要が多い一方で、まとまった工業用地が不足しており、新たな工業用地の確保が喫緊の課題となっていました。

各務山の土地利用については、平成 28 年 3 月に改訂した都市計画マスタープランにおいて、各務山地区を「土地利用検討地域」と位置付け、「残された緑地の保全や緑化を推進するとともに、工業系をはじめとした有効な土地利用を積極的に検討すること」を方針としています。

また、平成 28 年度に岐阜県にて実施した「工業用地開発可能性調査」においては、各務山全体を開発した場合の概算事業費や想定分譲価格を算定した結果、事業化の可能性があることが検証されました。こうした背景のもと、工業団地として整備していく地区としまして、昨年度から今年度に掛け、各務山全体の基本構想と、すでに平場となっている西側約 15ha について、開発に必要な施設の設計や排水計画などの基本設計を作成しているところです。

今年度はさらに、工業団地開発事業をご理解いただくため、地元住民や地権者の方々に対し、事業説明会を実施するほか、基本設計に基づき、より詳細な実施設計と用地買収に伴う用地測量、各務山の生態系を調査する環境調査なども実施する予定です。

道路整備については、工業団地開発に伴い、「おがせ街道」と「スポーツ広場南通り」を結ぶ幹線道路の整備を検討しています。これまで各務山で分断されていた各務地区と山の前地区が結ばれるとともに、南北に脆弱である市内の道路網が強化され、江南関線の渋滞緩和にも寄与すると考えられます。

各務山の開発には、採石事業の跡地を利用することから、プラントの移設など、採石業者のご協力なくしては実現しないため、引き続き意見交換や意向確認を重ね、事業へのご理解を得られるよう慎重に対応してまいります。

また、開発の効果が早期に表れるよう、関係機関との調整、協議を綿密に実施し、事業の促進に努めてまいります。

企業用の土地については、現在も大きな企業から年に数件は問い合わせをいただいている状況です。

スポーツ施設については、各務山周辺ということ言うと、鶯沼三ツ池町にある弓道場をサッカー場やテニスコートのある山の前町の「各務野スポーツの森テニスコート」の東側へ移転することを検討しているところです。

テーマ②：伊木の森を「鶯沼の里山」として保全し市民の憩いの場に

〈小伊木自治会長〉

現在の伊木の森ですが、アスレチックは閉鎖されており入ることはできません。ローラースケート場やバーベキューは、施設はあるが使われていません。多目的広場も使われていません。実際に使われているのは、テニスコート 4 面だけですが平日はほとんど使われていません。

以前の伊木の森はバーベキューやアスレチック、食堂もあって大変にぎわっていました。私も何度も利用しましたが今は非常に寂しく感じます。

今年のゴールデンウィークも登ろうと思いましたが、登山道が土砂崩れで閉鎖になっていて登れませんでした、今も登れません。

伊木の森を何とかしたい、そんな私の思いからこの提言をしました。

ローラースケート場やテニスコートは先を考えれば必要ないのではないか、スポーツ広場に集

約した方がいいのではないかと思います。

伊木の森を里山広場として、できるだけ昔の里山のイメージを大切にしたいコンクリートの無い、家族でゆっくりできる里山として整備してもらいたいという思いがあります。

アスレチックのコースは里山探索コースとして整備すると、20分から30分で家族でゆっくり探索できるようになると思います。

また、伊木山の南側には私も知らない良いところがたくさんあります。山頂からは小牧城・名古屋方面・御嶽山などが眺望できます。神社やお寺も有りますし、鳥が多くバードウォッチングも楽しめます、身近な自然もたくさん残されています。

いい素材はたくさんあるのでそれらを生かして改めて伊木の森を「鶉沼の里山」として保全・整備し、自然と親しめる市民の憩いの場として欲しいと思います。

〈市長〉

伊木の森は、昭和57年にオープンしました。私も小学校4年生で母親にアスレチックやローラースケートによく連れて行ってもらった思い出があります。

現在まで「各務原勤労者野外活動施設」として運営を行ってまいりました。近年は、施設の老朽化やレジャースタイルの多様化などにより、利用者は減少しています。

平成27年には、利用者の安全を最優先に考え、フィールドアスレチックとサイクルモノレールを廃止・撤去し、また、今年の2月には、かねてより滑走面の損傷が激しく安全面が危惧されておりましたローラースケート場の利用も休止とさせていただいております。

バーベキュー広場についても平成29年に営業を終了、テニスコート、研修室は、設備の故障もあり、利用時期や時間帯を縮小しての営業となっています。

市では、このような状況から大幅な修繕や施設更新を必要とする状態となった伊木の森について、今後どう有効活用していくかの検討をしてまいりました。

その中で、従来の「勤労者野外活動施設」という位置付けを見直す時期にあると判断し、「誰もが身近な自然と親しめる」をコンセプトに、小さなお子さまからご高齢の方々まで、より多くの皆様が安全に楽しんでいただける「里山広場」へと再整備することを方向づけました。整備計画には、日頃の健康づくりや森林浴などを兼ねて、気軽に登山を楽しんでいただけるよう、現在ある登山道の補修なども盛り込んでいます。

今後については、現在の形での営業は、今年度末までで終了し、当面の間、再整備に係る工事期間とさせていただきますので、皆様にご不便等おかけする場面もあるかと思いますが、ご理解、ご協力をお願いいたします。

スケジュールとしては平成30年度実施設計、31年度工事、32年春オープンの予定です。

内容としては今のところ、多目的トイレの設置、ローラースケート場・管理棟を撤去し、里山として整備、多目的広場を撤去し、芝生広場として整備、バーベキュー施設を撤去、既存の屋根を補修し、雨除け等として利用、テニスコートを撤去し、広場として整備、登山道の補修、展望エリアの設置を予定しています。

再整備後には改めて「身近な里山」として自然を身近に感じていただける安全安心な施設としてオープンする予定ですので、リニューアル後にはぜひ、お子さんやお孫さんを連れて訪れていただければと思います。

〈松が丘6丁目自治会長〉

コンセプトが山と芝生広場など、近くにある「自然遺産の森」と被っているように思えますが、利用される方の取り合いになるのではないのでしょうか。

〈商工振興課長〉

「伊木の森」は「日本ライン鶴沼の森」に近いイメージで捉えていただけたらと思います。近くの方がちょっと散策で行ける。といった感じに作り変えようと思っています。

「自然遺産の森」はもっと広い芝生の平場があり、更に広域的な方面から来られる方のための施設というイメージを持っていただけたらと思います。

「伊木の森」は小伊木・大伊木・丸子団地の方など、近所の方が朝や夕方に気軽に行けるような、「日本ライン鶴沼の森」に近い感じでの整備を考えています。

〈市長〉

「自然遺産の森」はもともと古い民家を移築してその周りに芝生広場を整備したもので、そこで遊んでいただくと共に、各務原アルプスを歩かれる人達にもトレッキングの際にお寄りいただく場所といったコンセプトになっています。

伊木山の方は元々からある伊木山を元の形に戻す、そしてそこで自然を楽しんでいただくというものです。

芝生広場がありながら、簡単に軽い登山も楽しんでいただける。また展望台を創ることによってそこからのロケーションを楽しんでいただきながら地域全体を見渡せるような形で、今一度市民の皆様にも訪れていただき、その地域の魅力といったものを知っていただく。といったコンセプトを持っていますので、やや意味合いが違うのかなと思います。

計画段階では遊具をなるべく設けずに里山としての再整備をしようではないかと考えておりますのでよろしくをお願いします。

〈丸子東自治会長〉

市長の話はものすごくうれしかったです。今の状況を言うと伊木山には誰も行きません。

夕方はカラスのねぐらで、周辺のカラスが全部集まってきて恐ろしいような光景です。

私の息子もここで育ちローラースケートやテニスをしましたが、今は誰もあそこに入って行かないんです。

今の市長のお話を聞いて、平成 32 年度を非常に楽しみに待っています。ぜひお願いします。

〈市長〉

ありがとうございました。ご期待に沿えるよう頑張ってます。

テーマ③：イオンタウンの出店に伴い住民が気軽に入れる図書館の新設を

〈西町西自治会長〉

このあたりには大きな本屋が撤退してから付近には気軽に入れる本屋や図書館がありません。子どもの教育には本が欠かせないと思います。

気軽に立ち寄り、長時間楽しめる図書館や本屋のようなものを作っていただきたいというのが提言です。

提案させていただくのは普通の図書館ではなく、コミュニティー図書館です。

目的としては地域の支えあいの交流拠点の一部となり、そこに図書が置いてあるというものです。

主な対象者は、サラリーマンや主婦、知的要求を満たしたい高齢者や学生などです。

施設としては、オープンテラスがあり緑の風景が満喫できるカフェと図書館が併設され、図書館の本を一時的に持ち出してカフェで読める、BGM が流れ館内で談笑できる雰囲気有する。といったものです。

こういった場所を設け、地域住民のコミュニケーションを図ると共に、若い世代のためのコミュニティースクールの拠点の一つとすることを考えています。

コミュニティースクールでは主に各務原市の将来を担う高校生や大学生の人材育成を目指します。忙しくあと一歩で大人になる難しい世代ではあるが、各務原市の将来を担う大事な世代である若者たちの人間関係におけるコミュニティスキルの向上を図り、心をつなぎ、不安な心に安心感を与え、悩める心に栄養を与えて、互いに支え合い助け合う生き方を身につけるきっかけを得るということです。人の話を聞く機会の少なくなっている若者に、いろいろな分野で活躍されている方を招いて講和をしていただいたり、専門分野で頑張っている方に話をしていただいたりして心の徳を積んでいただければありがたいと思います。

図書館で本を読んだり、成人講座など様々なことを取り行ってコミュニティを深めることが大事だと思っています。成人講座では、学生が大勢集まってグループワークでみんながそれぞれ話をするにより、思いやりのある人づくりができればと思います。

「イオン・タウン」ができるので、その集客力を利用して市東部鵜沼地区の活性化のために図書館の新設を希望します。

〈市長〉

鵜沼地区には、以前、鵜沼西町に書店が、そして鵜沼東町に大型書店がありましたが、閉店後、しばらく大型書店はありませんでした。

しかし、昨年、新たにアピタ各務原店内に草叢^{くさむら}BOOKS という新業態の書店がオープンしました。このお店は本を読みながらゆっくりくつろげる「スターバックスコーヒー」や、レンタルCD/DVD・コミックの「TSUTAYA」、文房具や雑貨など、「暮らしにスパイスを与え、ちょっと贅沢な時間と空間をご提供する」というコンセプトで運営されています。

このような民間による書店が市内にでき、市民の皆様にご利用され活気にあふれる事業展開がされることについては、消費者ニーズを上手く捉えたものであると認識しています。

市内には中央図書館（那加地区）をはじめ、川島ほんの家（稲羽川島地区）、中央ライフデザインセンター図書室（蘇原地区）やもりの本やさん（鵜沼地区）を設置して、4地区で各々特色を持たせた図書館として運営するほか、移動図書館による貸し出しを行うなど、毎年合計で 50 万人を越える多くの方々に図書館をご利用いただいている状況です。

また、平成 23 年度からは、あまり知られておりませんが「学校図書館の地域開放」を行いまして、市内すべての小中学校の図書館を地域の方々にもご利用いただけるようになっています。

ご提案をいただきました「民間との合弁によるカフェ併設の図書館の新設」については、本市では、現在のところご提案の場所を含めて、図書館の新設についての計画はありませんが、図書館施設の更なる有効活用に向けて、この度のご提言をはじめ、図書館協議会の委員や、あさけんポストなど広く市民の皆様のご意見を参考にするとともに、先進事例などの状況も調査・研究しながら、地域の皆様が気軽に利用でき、読書の普及につながる図書館運営を目指して参りますので、ご理解の程よろしく願いいたします。

少しだけ、もりの本やさんの PR をさせていただきます。鵜沼地区にある、もりの本やさんは、

平成3年に児童・乳幼児を対象とした図書室として開館し、子どもや親子を対象としたイベントを多く開催することで、特色を持たせてきましたが、利用者の方々の要望を受け、平成17年からは一般書も配置しています。

なお、もりの本やさんで所蔵していない図書でも中央図書館や他の分館・分室から取り寄せて借りることもできます。

また、利用者の返却の利便性を求める声を受けて、平成27年8月には、鶴沼駅空中歩道に返却用のブックポストを設置して図書館サービスの充実に努めているところです。

その他学校図書館の地域開放も行っております。平成23年度より、市民の方を対象に、学校図書館の本の貸出を始めました。また、学校図書館で中央図書館にある本の予約、受け取りができます。開放日時は、授業がある日で、各学校で異なりますが、1日2時間程度となっております。開放時間は学校により異なりますのでお問い合わせください。

テーマ④：老人力「宝の箱」発掘して活用を

〈松が丘連合自治会長〉

「老人力」以前に流行した言葉ですが、今会社等をリタイヤされ家に見える方々の中にも高度な技能や知識を持った人はたくさんお見えになる。こうした人たちを発掘して活用することができないかと思っています。

現在、ハローワーク等に企業側が望む人材の条件を登録しておき、そこに仕事を求める個人が出かけて仕事を見つける方法が一般的であるが、自分から出かけるには二の足を踏むことも多いし、働く条件もはっきり言いにくい。

これと逆転の発想で個人が自分の技能や知識、労働希望条件等を登録し、企業の側がそれを探しに来て求める人材があればその人に接触し条件が合えば働いてもらう。ただ個人の情報を守るために市役所が間に入って仲介する。こういったことができれば働く機会は増えると思う。

また、自分の思った職務内容と違うため数日で職を離れる人も多いと聞きます。そういったことを防ぐには職場体験をしてからの就労という事も双方のために考えるべきと思います。

今、八木山では「支えあいの家」という中で軽微な作業、ちょっとした草刈りや電球交換、網戸の張替えといった事をやっています、これらも高齢者の労働の一部となっているので紹介させていただきます。

〈市長〉

まさにタイムリーな話題で、先日の新聞に国が70歳定年制の検討に入ったという話が出ておりました。「経済財政運営の基本方針」や「成長戦略」の中で人手不足への対応として、外国人労働者の受け入れと65歳以上の健康な方に期待するといった内容でした。

高齢者の皆様に、生き生きと暮らし続けていただくためには、日々生きがいを持って過ごしていただくことが重要です。そのため、本市では、シニアクラブや高齢者趣味のクラブの活動を支援し、地域での仲間づくりや生きがいづくりを促進するとともに、元気な高齢者の皆様に就労の機会を提供するため、シルバー人材センターの運営を支援するなど、高齢者の皆様が活動しやすい環境を整えてまいりました。

そうした中で、昨年度から、専門的な資格がなくても、家事援助などの生活支援を行うことができる市独自の認定ヘルパーを養成しております。認定ヘルパーは、高齢者の日常生活を支援す

る「生活支援サポーター」と呼びます。市が主催する養成研修を3日間受講し、生活支援に関する知識を学びます。

生活支援サポーターは、チェックリストに該当した方や要支援 1、2の方が対象の訪問型サービスAを提供する訪問介護事業所への就業や、地域で生活支援など、地域の支え合い活動をする新たな担い手となっていただくことを目的としています。この取り組みにより、介護事業所は、必要とする人材を探すことも可能となり、介護現場の人材不足を解消する一助にも繋がるものと考えています。

もう一つはシティハローワーク各務原の活用です。ハローワークは県内に11カ所ありますがシティハローワークは各務原市と郡上市の2カ所しかありません。

各務原市と岐阜労働局は、那加東亜町にあるシティハローワーク各務原を共同で運営しており、求人情報の閲覧や職業相談、職業紹介などの就職支援を行っています。

その他にも求職者のうち、企業への公開を希望される方には、氏名、住所、年齢等の個人情報を伏せた内容で、候補者の情報を求人企業に提供する「リクエスト」というサービスを行っています。

事前に求職者の経歴や、資格、希望する職種などを登録することで、企業の求める条件に合った候補者情報をハローワークがその企業にお伝えするものです。特に企業側で年齢を問わない職種であれば高齢者の方も紹介しており、企業が面接等を希望されればハローワークが求職者本人にその企業の求人票を郵送し、興味があれば面接等の流れになっていくとのことですので、まさに先ほど会長さんがおっしゃられた通りの内容かと思えます。ぜひ、シティハローワーク各務原にお問い合わせください。

まだあまり知られていないようなので、今後さらにPRしてまいります。

また、少しだけ働いてみたいというお話もありましたが、各務原市では小中学校の児童・生徒の基礎的・基本的な学力の定着を図ることを目的として、各務原寺子屋事業「放課後学習室」というものを開催しています。

小学校では「放課後学習室」として小学校3年生を対象に全小学校で開催し、有償ボランティア講師として、169人が活躍してみえます。

中学校では「ららら学習室」として1年生から3年生の塾に通っていない生徒に放課後、勉強を教えるという事業を行っています。こちらは6つの会場で23人の有償ボランティア講師の方が働いてみえます。

特に小学校の「放課後学習室」は、小学3年生の自分の子や孫に勉強を教えるといった感覚で教員等の経験がなくてもできると思われ、実際に自治会長さんで見学に行った後、始められた方もおみえになります。こういったところにも講師として登録いただけたらと思います。

○行政の説明

- ・その先、その次へ。GO!NEXT

(その他の主な発言)

〈松が丘6丁目自治会長〉

平成30年度の主な取り組みの中で高校生を対象とした雇用対策事業で工業高校生対象と普通

科高校生を対象としたものがありましたが、商業高校は入っていません。

商業高校は就職するために高校へ進学する者が多いし企業の情報も欲しいと思います。商業高校生対象がないのは、商業高校は学校で対策をしているからということでしょうか。

〈市長〉

今回、関市で行ったのは関商工です。岐阜工業高校は工業系ですが、工業と商業を特に分けているわけではありません。

岐阜工業高校は、昨年各務原市と連携協定を結ばせていただきました。

そして関市で開催したことについては、現在、美濃加茂市、関市、各務原市が連携協定を結んでいる関係からです。ただし、美濃加茂市は「ものづくり」という点で見るとちょっと違う部分があること、そして工業高校もないため、関商工に対して関市と各務原市合同で行わせていただきました。岐阜工業高校については、連携協定に基づいて開催させていただきました。

今回は2つの学校のみでしたが、昨年度は市の担当職員で日本国内の大学・高校を合わせ95校、約100校近くを回らせていただいています。県内では高山工業高校等までも足を運ばせていただいております。

今後はこういったところでも商業だけ工業だけということではなく商業高校、普通科高校にも視野を広げていきたいと思っています。まず取っ掛かりとして、きっかけのある所からスタートしたというふうにご理解いただきたいと思います。

○連合会長からまとめのことは

○市長からまとめのことは